

インテリアコンサルタント

自黒裕子さん



DICカラーデザインスクール卒業生。AFT色彩検定1級と照明コンサルタントのライセンスを取得。現在は渋谷区広尾にあるイタリアの家具・建具の輸入販売代理店に勤務。主に建具・ワードローブ・家具の提案、発注、施工監理、アフターメンテナンスなどを手掛けている。

自分のやりたい仕事プラス色の知識

Q1 どんな仕事をしていますか

お客様の希望を聞き、建物全体の雰囲気や図面から空間を想像しながら、お客様好みのテイストにインテリアの組み合わせを提案、家具を発送します。打ち合わせの相手は、個人のお客様だけでなく、設計事務所のほか、ゼネコン、工務店などのこともあります。図面作成や施工監理なども仕事のうちです。ヘルメットをかぶり、工事現場へ下地のチェックに行くこともあります。イタリアの家具・建具・ワードローブを取り扱っているので、通関、検品、配送手配をしたり、イタリアメーカーへの出張、ミラノサローネ(イタリアの家具展示会)への出品、日本の家具見本市の出品も行います。

Q2 色の魅力はどんなところにありますか

色を変化させることにより、精神的に大きな影響を与えられるところ。たとえば、季節に合わせて色を変え、ファッションやメイクを変化させれば、ウキウキした気分になったり、落ち着いた気分になったりします。インテリアならクッションやカーテンの色を変えることにより、ガラリと部屋のイメージを変え、気持ちも変化させることができます。さらに素材と色、香りと色など、プラスαのもので楽しめる範囲が広がるのも、色の

持つ力ですね。

私は、生活を豊かにしたくて色の仕事を始めましたが、何かテーマを作り、そのテーマにそって色を考え、組み合わせると、自然にテーマの中身…たとえば風景などが見えてきます。次にその風景を思い浮かべると今度は色が浮かび、次はその色に合った素材がわかります。そうした作業を繰り返すことで物を立体的に想像できるようになってますます色に魅力を感じるようになりました。

Q3 どのように色の感性を磨いていますか

私の場合は訓練です。電車やバスに乗れば中刷り広告を見る、書店に頻繁に足を運んで雑誌をチェックするなど、常に色のトレンドを分析しています。女性誌の表紙は流行色をとて象徴していると思いますね。ウインドーショッピングも大切です。とくに新しいスポットには足を運ぶよう心掛けています。インテリアはファッションの影響を大きく受けていますから、ファッションを研究すると自然と次にはやる色が見えてきます。

Q4 仕事のやりがいと苦労はどんなところにありますか

ヘルメットをかぶるような現場は、埃がすごくて髪が真っ白になってバザバサになります。冬場は寒くて手の指先はもちろん、カカトが割れて血が出ることもあります。そんな環境はさすがに女としてはつらいです。でも、そんな苦労は物件が完成したときには吹き飛ばしてしまいます。自分が提案し、注文をいただき、発注から

取り付けまですべて担当した物件ができあがったときの喜びは何にも代え難いと思います。

Q5 これからどんな仕事をしてみたいですか

キッチンや洗面所なども扱ってみたいです。もっともっと素材や建築の知識を学んでいきたいと思っています。ゆくゆくはフリーになって、幅広い活動ができればと思っています。

Q6 読者へのメッセージ

色の知識は重要ですが、それを持っているだけでは仕事になりにくのが現状です。まずは自分の進みたい分野を決め、その分野の専門知識をつけることが重要です。「自分のやりたい仕事プラス色の知識」と考えると色を生かせる仕事に就きやすくなるのではないのでしょうか。



黒を基調とした落ち着いたインテリアに赤いドアが印象的なバスルーム(上)とステンレスのクールな空間に木目の温かみをプラスしたスタイリッシュなキッチン。



ソファの布地ひとつをとっても見本帳にあるさまざまなファブリックを参考にしながら決めていく。